



宇和島フォトフェスティバル 2025 UWAJIMA SIGHTS 開催中

UWA
JIMA

SIGHTS

2025

追加アーティスト紹介

イナ・ジャン | Ina Jang



Ina Jang 《Radiator Theatre (notes)》2018

Radiator Theatre 2018

《Radiator Theatre》は、舞台美術から着想を得て、視覚と言葉のふたつの言語を探究する叙情的な日記のようなもの。ブルックリンのアパートで、太陽の軌跡を追うように一日だけ組み立てられる。手描きの切り抜きとその影で構成され、儚くも繊細な瞬間を浮かび上がらせるイメージは屏風絵のように宇和島城を飾る。

プロフィール

韓国出身・ニューヨークを拠点に活動。視覚イメージを再構成し、写真、コラージュ、ドローイングを融合させたアプローチで知られる。School of Visual Arts (SVA) で写真を学び、同校MFAを取得。世界の主要写真機関やフェアで作品を発表。また『The New York Times Magazine』『TIME』などの媒体とのコラボも多数。

シェルテンス & アベネス | Scheltens & Abbenes



Scheltens & Abbenes 《A Matter of Approach》2025

A Matter of Approach 2025

“もの”を素材として“写真で彫刻をつくる”アーティストデュオ。ファッションと美術、デザインとコンセプトを横断し、静物写真の可能性を極限まで拡張する。宇和島の商店街の空き店舗を覗くと暗闇の中にさまざまな“もの”が現れては消える。かつてそこにあった商いの記憶が浮かび上がってくるような映像体験。

プロフィール

オランダ生まれのユニット。被写体を単なる「モノ」ではなく、「形」「パターン」「構造」として再発見することで、写真を“視覚的思考の場”へと拡張する独自のアプローチを築いてきた。ファッションやデザイン分野とも密接に関わり、ブランドや雑誌のビジュアルも数多く手がけながら、国際的な美術館での展示も多い。

チャーリー・エングマン | Charlie Engman



Charlie Engman 《Mom (Goldfish)》2016

Mom 2016

エングマンが母親キャスリーン（愛称ラスティー）と共同制作する長期プロジェクト。イメージをつくる行為が人間関係やそこへの期待、アイデンティティや人とのつながりなどの社会的構築にどんな影響を与えるのかを遊び心を持って継続的に探る。70代にして現役モデルとなったラスティーが、宇和島の商店街に現れる！

プロフィール

デジタル時代にイメージが感情やアイデンティティ、自己認識をいかに形成するか、近年は生成AIを駆使してテクノロジーが身体、親密さ、日常の表現をいかに変化させるかを考察。著書に『MOM』（2020）、『Hello Chaos: A Love Story』（2024）、『Cursed』（2024）。ファッションブランド「コリーナ・ストラダ」のアートディレクターも務める。ニューヨークを拠点に活動。

追加イベント

宇和島フォトグラフィックリサーチ報告会 ～TPRが宇和島で見つけたもの～
日時：11月8日(土) 14時30分～16時 会場：sun plaza 跡(きさいやロード内)

最新情報は公式サイト
およびInstagram
をご確認ください。



問 宇和島ARTプロジェクト事務局(市長公室シティセールス推進係) ☎49-7085